



第 36 号

2004年3月

岡山県古代吉備文化財センター

▲ 西江遺跡（哲西町）出土特殊器台文様



宮ノ上1号墳石室（中央）、出土した仿製内行花文鏡（左上）

## 宮ノ上遺跡 ～丘陵上に営まれた弥生集落と宮ノ上古墳群～

岡山県古代吉備文化財センターは、国道374号線改良に伴い、平成15（2003）年4月から平成16（2004）年3月まで、勝田郡勝央町小矢田に所在する宮ノ上遺跡の発掘調査を行いました。宮ノ上遺跡は弥生時代から鎌倉時代にかけての複合遺跡で、今回の調査では、弥生時代中～後期の竪穴住居19軒・掘立柱建物1棟・段状遺構5か所、古墳時代中～後期の竪穴住居7軒・掘

立柱建物1棟が検出されています。また、調査区の北端の尾根上には宮ノ上1号墳が知られていましたが、調査の過程でその周辺から宮ノ上2～4号墳が新たに見つかり、宮ノ上古墳群の存在が明らかになりました。

宮ノ上1号墳は削平がひどく、原形をとどめていませんでしたが、残存する盛土の形状からは円墳だったようです。埋葬施設には竪穴式石



室が採用されています。石室は、全長約3.05m、幅1.5mを測るやや広めの床面をもつのが特徴で、同じ吉井川水系に属す柵原町王子中古墳に類似した石室の構造がうかがえます。遺物は、石室内から獣帯鏡片、鉄鎌、赤色顔料等、そのほか墳丘流出土内から小形仿製内行花文鏡が1面出土しています。

宮ノ上2～4号墳は全長10m前後の方墳で、上部を大きく削平された状態で検出されました。そのうち2号墳の周溝内には埴輪が出土していて、同古墳の築造時期が古墳時代中期初頭に遡る可能性が指摘されます。そうしたことから、宮ノ上1～4号墳が古墳時代中期のなかで、尾根上に連続して築造されたことが推察されます。これらの遺構は、後世の開墾などで多くの貴重な情報を失ってはいますが、出土した副葬品や平地を眺望できる選地環境などから、この勝間田盆地一帯を支配した有力な被葬者像が浮かび上がります。

宮ノ上遺跡の広がるこの丘陵一帯は、隣接す



宮ノ上遺跡全景（手前：集落、奥：宮ノ上1号墳）

る国司尾・天神遺跡（本誌第34号参照）の発掘調査の成果を加えると、弥生時代中～後期には、宮ノ上遺跡の住居群を中核とした集落域と天神遺跡の木棺墓群にみられる墓域とで構成されていたようです。また古墳時代中～後期には、宮ノ上古墳群が丘陵尾根の北端に出現し、国司尾・天神遺跡の古墳や土壙墓群とともに、丘陵一帯に墓域を形成していたものと考えられます。

今後さらに資料整理が進めば、より具体的な歴史像が明らかになると思います。（山崎孝盛）

## 走れない馬 ～南溝手遺跡出土陶馬～

皆さんは絵馬の起源をご存じでしたか？なんでも、古墳時代に、神様に馬を捧げたのが始まりとか。その後、様々な変化をたどって現代に受け継がれていくのですが、奈良時代から平安時代に行われた、土製の馬の人形＝土馬を使った祭祀もそのひとつと考えられています。

総社市で進められている南溝手遺跡の発掘調査でも、奈良～平安時代の河の跡から一体の土馬が出土しました。ただし、通常の素焼きの土製品と違って、窯で焼かれた須恵質という硬い焼き物で、陶馬と呼ばれています。陶馬は岡山県下では10例足らずしか出土していません。また、長さ25cmほどの小さなものですが、目鼻口やたてがみのみならず、鞍やくつわなどの馬具も表現された、貴重なものです。

では、この陶馬にはどんな願いがこめられていたのでしょうか？ひとつには雨乞いや、天候の回復を願って水神に捧げたという説があります。

一方、馬は神様の乗り物で、疫病や災害をもたらす悪い神様の動きを封じ込めるために、わざと脚を壊して棄てたという説もあります。

南溝手遺跡で発見された陶馬には、写真でごらんのとおり脚がありません。脚のはがれた跡があることから、焼き上がった後でもぎとったようです。古代の人々は、この馬に、どんな思いをたくしたのでしょうか。（渡邊恵里子）



南溝手遺跡出土陶馬

## 人とモノの行き交う交流拠点 ～奥津町久田堀ノ内遺跡～

苫田ダム関連の報告書整理も今年で3年目を迎えています。ここでは久田堀ノ内遺跡の報告書整理を通してわかってきたことについて簡単に紹介していきたいと思います。

久田堀ノ内遺跡は岡山県北部の苫田郡奥津町にある遺跡です。岡山県三大河川の一つ吉井川沿いに形成されたやや広い谷底平野に存在し、縄文時代以来、近現代に至るまでの人々の活動の痕跡が認められます。中でも縄文時代・弥生時代・中近世の遺構や遺物が数多く残されており、遺物には遠隔地との交流を示す貴重なものも含まれています。

縄文時代の遺物は後期（約4,000年前）にさかのぼるものも出土していますが、大幅に増加するのは晩期（約3,000年前）になってからで、大量の土器や石器・玉等が見つかっています。これらの中には、東北～北陸・関東・近畿地方との関わりを示す土器や、北九州産の可能性のある玉などがあります。さらに当遺跡で製作されている石器には香川県産のサヌカイトや島根県隠岐島産の黒曜石なども使われています。

このように多様な地域との交流を物語る遺物が出土しており、縄文人の活動範囲の広さに驚かされるとともに、この地を経由して盛んに人々が行き交った姿が想像されます。

弥生時代では中期後葉（約2,100～2,000年前）の遺構や遺物が多く発見されています。

この時期の遺物としては土器・石器・鉄器があります。土器には県南部地域や山陰地方との結びつきを示す土器も含まれています。そして、何より注目されるのが鉄器です。これは2軒の竪穴住居から見つっていますが、その中に鍛冶を行う際に生じた鉄片があり、鉄器生産が行われていたことをうかがわせる貴重な遺物です。この時期の鉄器生産の類例は、近年日本海沿岸地域を中心として見つかってきており、当遺跡のものもこれらの地域との関わりの中で導入されたと考えられます。

弥生時代においても、遠隔地との交流の痕跡が認められ、交流拠点としての役割を果たしていたと考えられます。

時代はかなり下って、中近世では3条の堀が発見されています。内堀（鎌倉時代）から中堀（室町時代）、そして外堀（戦国時代）へと規模が拡大しており、外堀段階の規模は美作国の守護館である津山市院庄館に匹敵します。この堀の規模は、館の主の勢力とともに、当地域の重要性も示しています。この地にこのような館跡が成立したのは、周囲の丘陵上に山城が多く築かれていることにも示されているように、政治的・軍事的な緊張が背景にあり、さらに当地域が山陰と山陽を結ぶ交通路の重要拠点として認識されていたからでしょう。

有力な勢力の存在は遺物からもうかがうことができ、多量の青磁（器台・盤などを含む）・白磁などの中国産陶磁器に加え、類例の少ない東南アジア産の陶器も出土しています。

このように久田堀ノ内遺跡が、各時代を通して人とモノの行き交う大集落であったとわかってきました。

苫田ダム関連の報告書整理は現在も進行中です。今後、整理が進むにつれ、より具体的な歴史像が明らかになっていくことが期待されます。

（河合 忍）



遠隔地との交流を物語る縄文土器



## センターの年間事業（平成15年度）

### 調査第一課

平成15（2003）年度の調査第一課は、第一係7名（文化財課兼務1名）、第二係6名（4～8月、9月から4名）の計13名で編成し、第一係は埋蔵文化財の普及啓発、発掘調査報告書等の整理と刊行、発掘調査（試掘・確認ほか）、出土遺物や記録写真の整理・貸し出し、インターネット版岡山県遺跡地図の公開準備作業など広汎にわたる業務を行いました。

普及・啓発事業としては第16回「県内の発掘調査報告会―大地からの便り―」を、8月23日（土）に岡山県立美術館で開催しました。市町村の協力も得て、発掘調査成果をスライドで上映し、担当者による説明を加えました。また、津島遺跡をはじめ県内各地の遺跡から出土し、話題を呼んだ遺物の展示コーナーも好評を博しました。

また、平成13（2001）年6月に条例制定された「おかやま教育の日」および「おかやま教育週間」の協賛事業として、11月2日（日）に国指定史跡津島遺跡内において歴史講座「津島遺跡ってどんな遺跡？」を文化財課と共催で実施しました。正岡所長による講演「津島遺跡と弥生時代のはじまり」に続き、公園の一角で「火おこし」体験、赤米・黒米を弥生時代の復元農具で脱穀する作業、出土した炭化米の洗浄抽出、ドングリの実を調理したクッキーの試食など、小学生から大人までの参加者（41名）に好評でした。とりわけ舞錘まいづりを使っての「火おこし」作業は人気を集め、炎が燃え上がった瞬間には、大きな歓声があがるほどでした（7ページ参照）。

なお、8月に桃太郎スタジアム内に開設された「遺跡&スポーツミュージアム」では、津島遺跡の出土遺物や記録映像・写真などを公開しています。2月半ばで、すでに入館者は10,000人を越えています。県民の皆様に津島遺跡の貴重な展示資料を通じて、歴史の学習や憩いの場として今後の利用増加が期待されます。

センターの普及活動の一環として、年間を通して中学生の職場体験を受け入れました。遺跡での発掘作業体験や、センターでの土器の復元など8校18名の生徒がセンター業務に触れました。一方、大学生のインターンシップも、今年度初めて受け入れ、男女各1名に発掘体験のほか、土器の洗浄・復元・拓本や、発掘資材の整理など幅広い業務を経験して頂きました。

発掘調査事業は、8ページに掲載した遺跡（1～7・9）を第一係が担当しました。全面調査は、国道180号線バイパス建設に伴う発掘調査（南溝手遺跡ほか：総社市）を実施しました。古代建物群が見つかったほか、河道から祭祀に使われた陶馬が出土しています（2ページ参照）。

確認調査は、上田邑西大澤遺跡（津山市）、中町B遺跡（大原町）ほか7件実施しました。また、総社市教育委員会が取り組んでいる国指定史跡「鬼城山」の整備事業について、測量などの支援作業も行いました。

第二係は、国指定史跡津島遺跡の発掘調査を実施しました。これは、平成17（2005）年に開催される「岡山国体」に伴う新体育館建設用地の事前調査で、基礎部分によって現状が損なわれる部分に限定して行いました。今まで津島遺跡では、あまり知られていなかった弥生時代中期の資料が多く見つかりました。

報告書の作成は、津島遺跡6（第二次・三次確認調査）、長縄手遺跡（備前市）を行い、来年度印刷刊行予定です。（岡田 博）



津島遺跡 新体育館建設に伴う発掘調査（南から）

## 調査第二課

調査第二課は今年度苫田ダム関係の報告書作成作業（久田堀ノ内遺跡・夏栗遺跡）の発掘調査、都市計画道路竹田升田線関係の発掘調査（天神河原遺跡・中島城跡）、一般県道目木大庭線（樋ヶ鼻遺跡）、県立岡山工業高校（伊福定国前遺跡）の報告書作成が主な仕事でした。

都市計画道路竹田升田線街路改築に伴う発掘調査では、まず天神河原遺跡（岡山市中井・高島新屋敷）の全面調査を平成15（2003）年4月から12月まで実施しました。同遺跡は県指定史跡・備前国府跡から南西約300mにあたり、課題ともなっている国府の所在を考古学的に検証する機会になりました。

調査区は宅地化が進む田園地帯に立地しており、古代から中世までの土壌、掘立柱建物、鍛冶炉、溝や多数の柱穴・ピットなどの遺構が検出されました。また、出土遺物では同期の土師器・須恵器・白磁・青磁などに加え、踏脚硯の破片や官人の身分序列を表す丸鞆・鉈尾などの帯飾り金具が認められました。また、洪水砂礫層からはあまり磨滅を受けていない弥生時代から古墳時代の遺物も多くみられており、周辺に同時期の集落が存在していたと考えられます。

続いて、中島城跡（岡山市中島）の全面調査を平成16（2004）年1月から3月まで実施しました。同城に関する文献は少なく詳細は不明とされますが、中島氏領とするこの一帯は永禄10（1567）年、宇喜多直家と三村元親による明禅寺合戦による一連の戦乱の場所であるとの由来をもちます。これまでに中世から近世の遺構・遺物のほか、近世初頭の製作とされる十数基の一石五輪塔や備前焼の蔵骨器などが1か所にまとめられた状況で確認されました。

確認調査は平成15（2003）年7月から9月までの期間のうち、岡山市中島・今在家・高島新屋敷の18地点を実施しました。今回の結果と昨年度の確認調査の成果から古代から中世を主体とする4遺跡の存在が明らかとなりました。

（伊藤 晃・澤山孝之）

## 調査第三課

### 本年度の事業

#### 第一係

- ・佐伯長船線【美作岡山道路】道路改築  
土井遺跡 （発掘調査）4月～9月  
（報告書整理）10月～3月
- ・旭川放水路（百間川）改修  
（発掘調査）通 年

#### 第二係

- ・川入巖井線道路改築（発掘調査）4月～8月  
（報告書整理）9月～12月
- ・大谷一宮線街路改築（発掘調査）4月～10月  
（報告書整理）11月～3月
- ・勝央調整池築造 （発掘調査）11月～12月  
（報告書作成）1月～3月

#### 第三係

- ・国道374号線【美作岡山道路】改良  
（発掘調査）通 年
- ・佐伯長船線【美作岡山道路】道路改築  
慶運寺遺跡他 （報告書整理）通 年
- ・中山間地域整備 （報告書作成）4月～6月
- ・佐伯長船線【美作岡山道路】墓地造成  
（発掘調査）4月～10月  
（報告書整理）11月～3月

### 発掘調査概要

佐伯長船線は、昨年度県下初の埴輪窯跡2基の発見で注目された熊山町土井遺跡、それに瀬戸町塩納成遺跡の調査を実施しました。前者は昨年度から継続して残り部分を調査し、新たに古代の窖窯1基や古墳時代後期の石棺と陶棺埋葬施設1基が見つかったほか、弥生時代中期の竪穴住居2軒、段状遺構4基と建物1棟、中世山城の堀切施設1か所などが明らかになりました。そのうち窖窯は、当初は須恵器と瓦が、最終的には瓦が焼かれたようで、また煙道近くの床は階段状となっていました（詳細は所報第35号参照）。

また、後者は南向きの緩斜面を調査し、弥生時代中期後半を中心とする竪穴住居12軒、段状遺構15基、土壌9基、柱穴列3列、溝6条など、古墳時代後期の竪穴住居1軒、鎌倉時代の竪穴





地元子供会の見学（塩納成遺跡）

住居1軒、室町時代の建物3棟以上と柱穴列（柵）2列などが見つかっています。

注目される遺物として、弥生時代中期後半の竪穴住居から出土した板状鉄斧（長さ26.6cm、幅3.2cm）があります。また、石器の出土が残核や剝片を含み約300点を超すなど、石器製作集団の集落であった可能性も高いようです。

旭川放水路の調査は、昨年度継続の百間川原尾島遺跡、そして新たに同沢田遺跡と同兼基遺跡を実施しました。

百間川原尾島遺跡は、微高地から一部低位部にかかる部分の調査を実施。弥生時代前期～中期の溝6条と水田1面、後期を中心とする竪穴住居4軒・建物1棟・井戸4基・土壇3基のほか、後期末の洪水砂に覆われた水田1面、さらに、古墳時代の竪穴住居7軒・建物1棟・井戸1基・土壇2基・溝5条などが見つかっています。これらのなかで、弥生後期の井戸の1基から出土した舟形土製品、3×1間の掘立柱建物を伴う土壇、そして古墳時代の一辺8m弱の規模をもつ大形方形住居の、それぞれの存在が注目されます。百間川沢田遺跡は、低水路右岸では唯一未調査であった工事用道路下の、約400m<sup>2</sup>



竪穴住居の調査風景（百間川原尾島遺跡）

を調査。縄文時代晩期～弥生前期の河道1条、弥生後期末の水田面と古代～中世の溝数条などが検出されています。また百間川兼基遺跡は、浄化施設のできる五反田樋門近くの高水敷を調査。古代の包含層中から「宋」字の銅印が出土したほか、古墳時代の溝3条や総柱建物1棟、弥生後期末の洪水砂に覆われた微高地の旧地形と用水路などが見つかっています。

川入巖井線は、岡山市川入の新幹線の南側道部分にあたる川入遺跡を調査し、微高地末端部の低位から弥生時代前期らしい細長いくぼみ1か所、古墳時代初め頃の溝2条と小さなくぼみ11か所、古代の杭列状遺構1か所などが認められています。遺物は総じて少量でした。

大谷一宮線は、津山市小田中から山北にかけての小田中遺跡ほかを調査し、弥生時代中期のたわみ1か所や溝1条、古墳時代前半の方形竪穴住居2軒と同後期の自然流路1条、それに軒丸瓦や平瓦が出土した白鳳期の溝1条、平安～鎌倉時代の区画溝などが見つかっています。

勝央調整池の調査は、勝田郡勝央町田井の田井ちご池遺跡を実施し、縄文時代と考えられる落とし穴4基とその類の土壇5基、弥生時代後期後葉の竪穴住居1軒、中世のたわみなど2か所が確認されました。遺物は住居から石斧と石包丁が各1点、中世たわみから勝岡田焼・備前焼・布目瓦・瓦経片、表土から石鏃・磨り石など、それぞれ各1点が出土しています。

国道374号線は、勝央町小矢田の宮ノ上遺跡・宮ノ上古墳群の調査を実施しました。遺跡は、弥生時代中期後半～後期の竪穴住居19軒、段状遺構5基、建物1棟、土壇6+α、溝2条など、古墳時代の竪穴住居7軒、それに中世の焼土壇2基などを検出。古墳は径15m前後の墳丘規模ですが、裾や墳丘の西側約半分と主体部（竪穴式石室）の大半が失われています。どちらかという、円墳と考えられています。遺物は、石室の床と攪乱土から、計2面の銅鏡などが出土しています。また、この古墳以外にも墳丘を削平された方墳が3基確認されました。詳細は本書の1～2頁を参照ください。（柳瀬昭彦）



## 平成15年度埋蔵文化財担当職員研修会

今回で15回目を迎える埋蔵文化財担当職員研修会は、平成16（2004）年1月23日に岡山県生涯学習センターを会場に、県・市町村の担当職員75名の参加を得て、開催しました。

この研修会は、県内の行政機関で、埋蔵文化財保護に携わっている職員の資質の向上を目的として隔年で実施しているものです。

今年度は、講師に神戸女子大学教授の間壁葎子氏と松江市教育委員会文化財課長の岡崎雄二郎氏をお迎えし、御講演を頂きました。



間壁氏の講演

間壁氏は、「人物埴輪と装飾須恵器の小像」と題し、県内出土の人物埴輪・装飾須恵器の紹介を通して、多くの視点から言及され、職掌集団との関わりを指摘するなど大変興味深い内容でした。特に、近年熊山町土井遺跡から「楯持ち人」埴輪が出土しており、その意義を考える上で大変示唆に富んだ講演となりました。

また、岡崎氏の講演は「田和山遺跡の保存と活用」と題し、スライドを交えながら、御自身が関わっておられる遺跡の保存問題の経過とともに、今後の遺跡整備・活用についてのお話でした。県・市町村の埋蔵文化財担当職員としては、常に参考となる部分が多く、遺跡の保存と活用を深く考えさせられる内容でした。



岡崎氏の講演

## 歴史講座「津島遺跡ってどんな遺跡？」

岡山市いずみ町の県総合グラウンド内に所在する津島遺跡では、平成9（1997）年度以降、各種の発掘調査により弥生時代の集落や水田など、多くの発見がなされました。その調査成果を一般の方々に紹介することを目的として、県教育庁文化財課との共催で歴史講座「津島遺跡ってどんな遺跡？」を11月2日に開催しました。

集まった41人の参加者は、正岡所長の講演と展示室「遺跡&スポーツミュージアム」見学の後、全員で「スポーツの森広場」に出て体験学習に取り組みました。子供たちに一番人気だったのは火起こし体験です。勢いよく回転する火きりの先端から煙が起り、火種を枯れ葉に移して炎が上がると、歓声とともに真剣だった表情が一転、達成感で明るく輝きました。マッチすら縁遠い子供たちには、自力で火を得るという体験自体がとても新鮮だったようです。

このほか、赤米を使った脱穀作業、ドングリ

で作った団子やクッキーの試食、出土炭化米の洗い出しなど各種の体験学習を通して、参加者一同、弥生人の生活ぶりを垣間見た一日でした。

これを機会に、津島遺跡だけでなく埋蔵文化財一般への理解がより深まり、今後の遺跡保護・活用へと役立てていければと願っています。



火起こしに挑戦... がんばれ、あと一息！

# 岡山県古代吉備文化財センター発掘調査一覧 (平成15年度)

遺跡名	所在地	調査原因	種別	遺跡の内容	調査期間	調査面積
1 津島遺跡	岡山市いずみ町	財務省官舎建替	確認	弥生時代～中世の集落・水田	5.6～5.19	30m <sup>2</sup>
2 津島遺跡	岡山市伊福町	岡山西税務署庁舎建築	確認	古墳時代～古代の水田	6.9～6.13	52m <sup>2</sup>
3 上田邑西大澤遺跡	津山市上田邑	防災ダム事業	確認	弥生時代の集落	6.10～7.11	800m <sup>2</sup>
4 榎土居散布地	勝田郡勝央町東吉田	一級河川滝川河川改修工事	確認	(包蔵地確認されず)	6.11	3m <sup>2</sup>
5 竹林寺天文台遺跡	浅口郡鴨方町本庄	国立天文台岡山天体物理観測所新望遠鏡施設建設	確認	弥生時代の集落	7.14～7.28	195m <sup>2</sup>
6 和田遺跡	小田郡矢掛町矢掛	県立矢掛高等学校校舎建設	確認	弥生時代～中世の包蔵地	8.25～8.29	24m <sup>2</sup>
7 中町B遺跡	英田郡大原町中町	中国横断自動車道姫路鳥取線建設	確認	中世の集落	11.4～12.10	900m <sup>2</sup>
8 津島遺跡	岡山市いずみ町	岡山県総合グラウンド新体育館建設	全面	弥生時代～中世の集落・水田	4.1～8.11	2,135m <sup>2</sup>
9 南溝手遺跡ほか	総社市南溝手ほか	国道180号総社バイパス建設	全面	弥生時代～中世の集落	4.1～3.31	5,620m <sup>2</sup>
10 中島城跡ほか	岡山市高島新屋敷ほか	都市計画道路竹田升田線街路改築	確認・全面	中世の城跡ほか	4.1～3.31	3,034m <sup>2</sup>
11 夏栗遺跡	苫田郡奥津町久田下原	苫田ダム建設	全面	縄文時代～近世の集落	10.1～3.12	1,120m <sup>2</sup>
12 土井遺跡	赤磐郡熊山町可真上	主要地方道佐伯長船線(美作岡山道路)道路改築	全面	弥生時代～中世の集落・竈	4.1～9.30	2,560m <sup>2</sup>
13 百間川原尾島遺跡ほか	岡山市原尾島ほか	旭川放水路(百間川)改修	全面	弥生時代～中世の集落・水田	4.1～3.31	2,558m <sup>2</sup>
14 美作国府跡ほか	津山市小田中ほか	都市計画道路大谷一宮線街路改築	全面	弥生時代～中世の集落・官衙	4.1～10.31	4,316m <sup>2</sup>
15 川入遺跡ほか	岡山市川入	一般県道川入巖井線道路改築	全面	弥生時代～中世の集落・水田	4.1～8.31	1,755m <sup>2</sup>
16 田井ちご池遺跡	勝田郡勝央町田井	勝央調整池築造	全面	弥生時代～中世の集落	11.1～12.31	1,578m <sup>2</sup>
17 塩納成遺跡	赤磐郡瀬戸町塩納	主要地方道佐伯長船線(美作岡山道路)道路改築	全面	弥生時代～中世の集落	4.1～10.31	2,160m <sup>2</sup>
18 宮ノ上遺跡ほか	勝田郡勝央町小矢田	国道374号線改良	試掘・全面	弥生時代～中世の集落・古墳	4.1～3.31	8,520m <sup>2</sup>
					総計	37,360m <sup>2</sup>



編集・発行

## 岡山県古代吉備文化財センター

所在地 〒701-0136 岡山市西花尻1325-3

TEL (086) 293-3211 FAX (086) 293-0142

<http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kodai/kodaik.htm>

●交通案内 ・JR山陽本線瀬瀬駅下車徒歩40分

・JR吉備線吉備津駅下車徒歩25分

●業務時間 AM 8:30～PM 5:15

●休業日 土・日曜日及び祝日、年末・年始

●展示室の開館 AM 9:00～PM 5:00

H16年4月から年末・年始を除き、土・日・祝日も開館します。ただし、臨時に休館することがあります。

